



部交換
支見
北意
東北
協と
コン
建手
岩手

プロポ積極活用 総合評価、導入予定なし

岩手県と建設コンサル
タツシ協会（建コン協）
東北支部（遠藤敏雄支部
長）との意見交換会が28
日、盛岡市の岩手県民会
館で開かれた。写真。協
会は、特記仕様書で業務
範囲を規定できない業務
を中心に、プロポーザル
方式を積極的に活用する
よう要望。これに対し県
は「（受託候補者選定ま
での）時間的な制約がな

く、適用できそうな案件
があれば来年度以降も積
極的に活用したい」との
考えを示した。県は02年
度と同方式の試行を開始
し、08年度までに合計36
件で適用。昨年度7件、
本年度も7件程度で適用
する見通し。

現在、コンサル等業務
の発注で総合評価未導入
の県は、東北では岩手と
青森のみ。総合評価導入
を強く求める協会に対
し、県は「いまは業務よ
りも工事での浸透を目指
している。業務では低価
格入札の件数増加に歯止
めをかけることが先決」
とし、現段階で業務への
導入予定はないことを説
明。ただ、「いずれは試
行することになる」とも

述べ、条件付き一般競争
を定着させた上で試行開
始時期を模索する意向
だ。

県は昨年7月、建設コ
ンサルタント業務等の発
注に制限付き一般競争入
札を試行導入することも
に最低制限価格を設定し
たことで、平均落札率が
82・8％と導入前より8
ポイント上昇したとのデー
タを提示。低価格入札対策
の一定の効果を認め、当

このほか会合では、▽
昨年度の発注状況▽3者
協議の活用▽発注者支援
業務でのコンサルタント
の活用▽適切な工期の設
定▽コンサルタント業務
の成績評定制度・表彰制
度ーなどについて意見を
交換。県が報告した昨年
度の発注状況では、測量
・試験費関係は県土整備

初年度通り来年度7月か
らコンサル等業務の全部
門で条件付き一般競争を
本格導入することを報告
した。協会が最低制限価
格を予定価格の8割程度
まで引き上げるよう求め
たことに対しては「今後
の検討課題」とした。

部全体で46億円、115
年度30件で実施。本年度
はさらに増え42件で実施
する予定。
会合には、県からは渡

邊健治建設技術振興課総
括課長ら4人、協会から
は遠藤支部長ら12人が参
加した。